

◆ 退任会長挨拶 ◆

本部の絆、支部の絆、
そして「多くの方々との絆」

平成 28 年度育友会長 出雲高志



4年前、娘が専修大学文学部に入学した際、大学との関わりは「4年間で1度くらいは、学祭か何かで娘が通う生田キャンパスにも行く機会があるだろう」程度に考えておりました。

そんな私が、育友会事務局からお声かけいただいたことをきっかけに、1年次は父母幹事として、2・3年次は副会長として、4年次は会長として育友会活動に携わらせていただいたこと、そして所属する埼玉支部においても、1年次から3年次まで支部役員を務めさせていただいたことに、「育友会との強いご縁」を感じております。

本部においては、1～3年次まで「奨励賞選考委員」を務めさせていただきました。スポーツやボランティア、難関試験等にチャレンジした子供たちの、想いのこもった応募論文を読ませていただき、表彰式では講評の読み上げも担当させていただきましたが、受賞者ご本人を目前に思わず涙が溢れそうになりました。そして、支部懇談会で出張させていただいた支部で、偶然にも受賞者の親御さんにお会いできた時は、驚き、感動致しました。

また、支部懇談会を総括し改善を図る「支部懇談会委員」も務めさせていただきました。埼玉支部の役員を兼務してましたので準備の大変さは判っているつもりでしたが、出張時に支部ごとに抱えておられる課題が異なることを再認識させられ、対応のお手伝いをさせていただきました。本部として改善できることを模索する中で、より親近感を感じていただけるよう「シブコン」という呼称を提案したり、「シブコンご参加までのご準備」というツールを考案する等、取り組んでまいりました。

スポーツ応援では、箱根駅伝予選会や相撲部の応援に参加させていただき、ひたむきに頑張る選手の姿に胸を打たれました。声を張りあげて応援し、翌日会社で声が枯れてしまったのも良い思い出です。

埼玉支部は和気藹々とした雰囲気、団結力のある支部でしたので、楽しく活動させていただきました。300名規模での開催となる支部懇談会の準備、運営

は大変でしたが、先輩方に指導いただき「参加して良かった!」と思っただけのシブコンを目指しました。また、映画「学校をつくろう」の上映会や、支部主催のキャンパス見学会も独自に企画、開催致しました。

これらの活動の中で、議論し、役割を分担し合い、一緒に汗をかきながら、本部や支部の先輩役員や後輩役員の方々との絆、そして同期役員との絆が強まっていくことを実感できたことは、得難い経験でした。

会長に就任した昨年は、新規事業は行いませんでしたが、活動内容の充実化、経費削減に積極的に取り組んでまいりました。平成 29 年度に向けて、「キャリア形成奨励金」の新設、各会議の集約を進めるとともに、会報『育友』、『支部懇談会ガイド』の編集・発行費用の見直し等により、経費面での体質改善を図りました。また、60周年記念事業として行事の実施方針を策定するとともに、記録・保存用の『専修大学育友会 31～60年史』、配布用の『60周年記念誌』の編纂、発行に向けて、協力会社の選定、編集方針や予算の策定、構成案の策定など具体化を図ってまいりました。

この4年間の育友会活動の中で、本部、支部役員の方々をはじめ、多くの方々との出会いがありました。自分一人の力では何もできませんが、皆さんに手を差し伸べていただき、声をかけていただき、何とかやってこられましたことを、心から感謝致しております。それらの出会いと、その出会いがもたらしてくれた「絆」が、何物にも代えがたい私の財産だと思っております。

また、娘と一緒に大学での年月を積み重ねていく中で、育友会活動を通して忘れていた大切なものを思い出し、元気をいっぱいいただいたように感じております。

さて、最後になりますが、育友会活動の4年間、多大なるご支援、ご協力をいただきました本部役員、各支部役員をはじめとする育友会員の皆様、ご指導、ご鞭撻をいただきました大学の教職員、校友会の役員の皆様、そして、多くの支えをいただきました育友会事務局、校友会事務局の皆様、心から御礼を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。